

BMW Motorsport
Customer Racing Team



GSR&Studie
with Team UKYO

2013 AUTOBACS SUPER GT
MOTEGI GT 250KM RACE

DRIVER 谷口信輝 片岡龍也

決勝 4 位完走。シリーズランキング 3 位で今シーズンを終える。



2013年11月2日・3日の2日間、AUTOBACS SUPER GT 第8戦『MOTEGI GT 250KM RACE』が開催された。前戦・前々戦と2連勝を果たし、8ポイント差でシリーズランキング2位に着けたチームは、今期最大の目標である『王座奪還』を果たすため、決戦の地ツインリンクもてぎへと向かった。

Studie AG

11月2日(土)
練習走行・予選



最終戦の初日は晴れのスタート。朝のうち重たい雲に覆われていたツインリンクだったが、練習走行スタート時には穏やかな青空が上空を覆った。

練習走行は定刻通り 9:00 にスタート。片岡選手が搭乗した 4 号車は PIT レーンオープンと同時にコースインした。

この最終戦、BMW Motorsport から Z4 GT3 エンジニアのオラフ・ブルグリン氏の派遣を受けた 4 号車の滑り出しは上々。片岡選手はセッション前半、タイヤ評価とマシンプログラムの確認を中心にメニューを消化し、中盤になるとステアリングを谷口選手に託すため一旦マシンを降りた。谷口選手は、終盤までセットアップを煮詰める作業に集中し、セッション終了直前まで走行を担当。マシンを再び片岡選手に委ねた。片岡選手はセッション終了まで 4 号車をドライブ。4 号車はこの練習走行を 8 番手のタイムで終えた。

また、このレースで GT 参戦 100 戦を迎えた谷口選手を祝い、練習走行後の PIT WALK の時間帯には、チームの PIT に大勢のドライバー・タイヤメーカースタッフを迎え、記念のセレモニーが行われた。



Studie AG

BMW Motorsport
Customer Racing Team



GSR&Studie
with Team UKYO

公式予選 Q1

公式予選 1 回目は 14:00~14:15 の 15 分間。

チームは予選開始と共に 4 号車をコースへ送り込んだ。Q1 担当ドライバーは片岡選手。ステアリングを握る片岡選手はアウトラップを済ませ、そのまま 1 周目の計測を開始したが、他チームのマシンのコースオフにより Q1 は赤旗中断に。片岡選手はセッション再開後、コースへ向かうと計測 2 周目からアタックを開始したが、前方のマシンとの間にアタックに必要なスペースを作る事が出来ず計測を中断。続く計測 3 周目も前方とのスペースに苦しみ、満足なアタックは行えなかったが、10 番手のタイムで Q1 を通過した。



公式予選 Q2

公式予選 2 回目は 14:45~14:57 の 12 分間。谷口選手が乗り込んだ 4 号車は、予選開始と共にコースへ向かった。谷口選手は計測 2 周目からアタックを開始。計測 2 周目は 1'49.809 を記録し、計測 3 周目は 1'49.709 を記録。続く計測 4 周目には 1'49.518 と周回を重ねる毎にタイムを更新したが、ライバル勢のタイムも素晴らしく、4 号車は 7 番手で Q2 を終えた。

Studie AG

BMW Motorsport
Customer Racing Team



GSR&Studie
with Team UKYO

11月3日(日)

決勝

最終戦決勝日のツインリンクもてぎは、霧に包まれたコンディションでスケジュールをスタート。

視界不良の為、ライトオン指示が出た 8:50 スタートのフリー走行では、セッション前半を片岡選手が担当。後半を谷口選手が担当し、決勝に向けた各部 CHECK を実施した。



決勝は定刻通り 13:30 開始。朝のうちコースに垂れ込めた霧も気温の上昇と共に消え去り、サーキット上空を青空が包んだ。このレース、4号車のスタートドライバーは片岡選手が担当。

片岡選手は7番手のダミーグリッドに着いたマシンへ乗り込み、決勝開始の時を待った。



Studie AG

BMW Motorsport
Customer Racing Team



GSR&Studie
with Team UKYO



13:30 ローリングラップスタート。
セーフティーカーが PIT レーンへ戻り、
まずは 500 クラスの隊列がコント
ロールラインを通過、続いて 300 クラ
スの隊列もコントロールラインを通
過して、2013 年シーズン最終戦の
決勝がスタートした。

片岡選手が駆る 4 号車は、クリー
ンなスタートを決め 7 番手をキープ。
ライバル勢も一様にきれいなスター
トを決め、300 クラスの先頭集団は
1 コーナーに飛び込んで行った。

レースは序盤から 1 位・2 位のマシンが後方を引き離す展
開。3 番手以降の隊列に埋もれてしまった 4 号車は、そのポ
テンシャルを発揮する事が出来ず、片岡選手のレースは序盤
からガマンを強いられてしまう。

集団に埋もれていた 4 号車のレースが動いたのは、ルーティ
ンのドライバー交代規定周回数を目前に迎えた 16 周目。ペ
ースが上がらずポジションを落としてきたマシンを捉えた片岡
選手はこれをパス。4 号車は 17 周目のコントロールラインを 6
番手のポジションで通過した。

続く 17 周目、ペースの上がない集団をいち早く抜け出し、
PIT アウト後にペースアップを狙う戦略を選択したチームは、
早くもここでドライバー交代を実施。片岡選手を PIT に呼び戻
すと、最小限の PIT 作業でマシンをコースに戻すべく、タイヤ
無交換で給油のみを行い、谷口選手とマシンをコースへ送り
出した。



Studie AG

BMW Motorsport
Customer Racing Team



GSR&Studie
with Team UKYO

18 周目、前方に大きく空間のあるタイミングでコースに戻った 4 号車のポジションは 18 番手。前方を走るマシンが次々に PIT へ向かう中、20 周目に 16 番手、22 周目には 11 番手と着実にポジションを上げて行った。迎えた 23 周目には、ルーティンの PIT タイミングでそれまで 3 番手を走行していた 61 号車をパスして 10 番手へ。他チームのコンスタントラップの速さに苦しみつつも、できる限りの作戦を狙うチームに応えた谷口選手は、その後も 30 周目に 7 番手、33 周目には 6 番手へとポジションを上げ続け、続く 34 周目には遂に 4 番手に浮上。



レース終盤は、タイヤを労りつつも、徐々に前方とのギャップを詰め続ける展開となったが、ライバルをオーバーテイクするまでには至らず、4 号車はこの最終戦の決勝を 4 位で完走。

シリーズランキングは 3 位で今シーズンのレースを終えた。



Studie AG



■鈴木康昭エントラント代表

今日のレースに関しては、ゲイナーさんに完敗としか言いようがないですね。どちらにせよ、彼らの前でのゴールがマストでしたが、前に出られなかった。ダンロップさんのタイヤもハマリだったみたいですし、開幕戦の速さを取り戻して良かったですよね。

今年を振り返ると鈴鹿は個人的には仕方がないと思っているのですが、富士でのパンク、セパンでの予選順位、SUGOでのノーポイントと、この3戦が厳しかったかなと。2連勝したことによって、チャンピオンシップに食い込めましたけど、本当ならそれ以前にきっちりとポイントを取って、ライバルたちを引き離して、今回勝てなくてもチャンピオンになれるくらいの戦いをしてこないと、王座奪還は厳しいんだなあと思いき知らされましたね。

■大橋逸夫監督

今日のレースはチームとしてはできる限りをやった良い内容だったと思います。ほかに打つ手がなかったなのであの作戦(タイヤ無交換)をとるしかなかったですし、上に行けるチャンスもあるにはありましたが、なかなか行くことができなかった。クルマもタイヤもドライバーもベストだったと思います。ガソリンの量もギリギリで攻めたし、ピット時間も短かったですし。ちょっと1~3位が速かったですね。

今シーズンは最初から直線が遅かったり不運なことが重なったりで、ちょっと釈然としないレースが続きましたが、終盤で2連勝することができました。しかし、あの速さが最初からあればとも思いますので、もし来年もあるなら最初から完璧な状態で戦いたいですね。



Studie AG

BMW Motorsport
Customer Racing Team



GSR&Studie
with Team UKYO



■片山右京スポーティングディレクター

今日は悔しかったですね。一縷の望みはあったと思うんです。それが、レースの流れの中で作戦がうまく機能しなかったのが残念でした。こちらの問題だけじゃなくて、レース全体でいろいろな要因があったと思いますね。

1年間を振り返ると、リストラクターとか富士でのパンクとか、痛かったところはいくつかありました。でも今年もたくさんのごことを学んだので、来年があればそれを活かして結果を出して行きたいですね。

Studie AG



■谷口信輝選手

チャンピオン争いしているクルマはもちろん、していないクルマも非常に速くて片岡選手が最初のステントで懸命にアタックをしてくれたのですが、1台しか抜けませんでした。もちろんレースなので、チャンピオン争いをしていないからといって空けてくれるわけがありません。もてぎの特性上、Z4だと抜きにくいんです。ピットで無交換作戦をしましたが、上位の3台には追いつくことができませんでした。



今年は周りと比べると戦闘力が劣っていたと思います。そこに富士のバンクと鈴鹿の失格という不運なレースがあって。もちろん9月の富士とオートポリスみたいにラッキーなレースもありました。みんなでチーム一丸となって頑張ったけど、チャンピオンには遠かったですね。

■片岡龍也選手

今日のレースは完璧でしたね。チームの全員ができることをやったうえの4位でした。今シーズンに関して言うと、2戦目富士のバンクと5戦目鈴鹿の失格という不運があって、これがなければとかタラレバはあるんですけど、少なくとも自分たちができる部分は全力を出し切った結果なので、悔しいですけど受け入れて、この悔しさを次に繋げたいですね。みんなに応援していただいたので、チャンピオンは獲りたかったんですが、今年はまだ僕らの年ではなかったみたいですね。

